

〈背景と文脈〉

主イエスの復活は十字架の死とともに、聖書の最も中心的な使信である。復活は、主イエスの贖いのみわざが父なる神に完全なものとして受け入れられ、完成したことを示す。パウロが「キリストが復活しなかったのなら、あなたがたの信仰はむなしく、あなたがたは今もなお、罪のなかにあることとなります」(コリント一15:17)と言っているゆえんである。

マタイ福音書は他の福音書と同様に、主イエスがいつ、またどのように復活されたかについては記していない。墓が空であったこと、よみがえられた主が数人の女たちに顕現されたことを通して復活の事実を証している。

マタイは特に、祭司長たちとファリサイ派の人々がピラトに願いで番兵たちに墓を守らせたこと(27:62～66)を記している。彼らは、主イエスの死体が弟子たちによって盗みだされないように、とできる限りの対策をとった。

〈天使の顕現と使信〉(28:1～7)

「週の初めの日の明け方」に「マグダラのマリアともう一人のマリアが墓を見に行った」(1)。ちなみに並行記事(マルコ16:1, ルカ24:1)を見ると、彼女たちの目的は主の御体に香料を塗るためであったことがわかる。もう一人のマリアはヤコブとヨセフの母マリアであり(27:56)、ヨハナ(ルカ24:10)、そのほか名を記されていない他の婦人たち(ルカ24:10)も一緒だったことがわかる。福音書の記事の間に矛盾があるのではなく、誰に焦点をあてているかによって異なっている。ちなみに、ヨハネ福音書はマグダラのマリアの名だけを記している。

2節の「すると」と訳されている語は「見よ!」という意味であり、読者の注意を喚起している。大きな地震が起こり、天使が天から降って来て、墓の入り口にあった大きな石(27:60, 66)を転がした。これは、婦人たちが墓の中に入り、空に

なっているのを確認するためであった。「座った」(2)は直訳すれば「座っていた」(原語では未完了過去が使われている)という意であり、これは婦人たちが墓に到着する前に起こった出来事と考えるのが自然である。

天使の顕現に接し、番兵たちは恐怖のあまり全身が麻痺し動けなくなった。彼らはピラトの命によって、主の遺体が弟子たちによって盗みだされないために番をしていた(27:65)。人間的な安全対策(封印された大きな石、番兵たち)は、神の御力の前には何の意味もなかった。

天使は婦人たちに、主イエスの復活とガリラヤで主に会えることを弟子たちに伝えるよう命じた。墓に行った彼女たちの目的は主の御体に香料を塗るためであったことから、主の復活をまったく予測していなかったことがわかる。婦人たちにとって復活のニュースはまさに喜びの訪れ(福音)であった。彼女たちは、恐れながらも大いに喜び、その使信を弟子たちに少しでも早く告げようと走って行った。

〈復活の主の顕現〉(28:8～10)

9節の「すると」も「見よ!」という意味である。まだ墓から遠くない所で、主イエスは婦人たちにご自身を現わされた。「おはよう」(9)は直訳すれば「喜びなさい」という挨拶の言葉である。婦人たちは主の前にひれ伏し礼拝した。主は、弟子たちへの伝言を婦人たちに託された(10)。主はその伝言のなかで「わたしの兄弟たち」と弟子たちを指して言われている。主が十字架にかかれたとき、ヨハネ以外の弟子は逃げた。しかしそうした彼らを赦され、弟子たちを「わたしの兄弟たち」と呼ばれたのである。マタイは、主が約束通りガリラヤで弟子たちにご自身を現わされ、そのような弱い弟子たちに、出て行ってすべての民をわたしの弟子にしなさい、という大宣教命令を与えられたことを記している(28:16～20)。

(後藤公子)

テキスト マタイによる福音書 28章1～10節
参照カテキズム 子どもカテキズム 問24

〔単元のねらい〕

よみがえった主イエスの第一声は「カイレテ（おはよう、ごきげんよう）」という、日常的な挨拶の言葉だった。それはかつて「喜びなさい（カイレテ）」と仰せになった、懐かしい説教を想起させる言葉でもあった。これを聞いて主のご復活を信じたマグダラのマリア。重病を癒されて献身的な奉仕者へ、十字架の死と埋葬の目撃者から復活の証言者へと導かれた彼女を物語ることによって、キリストが罪と死に勝利された意味を、身近な喜びとして伝えたい。

「おはよう」

「おはよう」……その声に目を覚ます。鳥たちのさえずりが耳に届く。両手と両足をぐーっと伸ばして、布団の上に起き上がり、起こしてくれた人に、「お・は・よ・う」。こんな平和な朝がどんなに幸せなことか、思いもしないで立ち上がる。そそくさと身支度し、御飯もそこそこに出かけてゆく。気がつけばお祈りしていない。そんな毎日を送っていないでしょうか。

もしもある朝、起こしてくれるはずの人がいないとしたら。もしもある朝、目を開けても光を感じない、耳を澄ましても音を感じないとしたら。もしもある朝、手足がこわばって動かない、舌がからまって口も利けないとしたら。起き上がることも立ち上がることも、身支度することも御飯を食べることもできないとしたら。今朝は、そんな体験をした人のお話です。

イエスさまがイスラエルの町や村を巡って旅をしておられた頃のこと。ガリラヤの湖の西のほとりに、マグダラという大きな町がありました。湖の魚をとる漁師たち、水揚げされた魚をせりにかける仲買人たち、仕入れた魚を塩漬けにする職人たち、買いつけて売りさばく商人たち。町は活気に満ちていました。この町にマリアという女の人がいたのです。自分もいつか商人になって、大きな商いをしてみたい。それとも職人になって、大きな工場をきりもりしたい。いつか結婚して、家族と一緒に暮らしたい。そんな夢を描く女性だっ

たでしょう。ところが、その夢を打ち砕く出来事が、彼女の身に起こりました。見えていた目が見えない、聞こえていた耳も聞こえない。器用だった手が動かない、軽やかだった足も動かない。舌がもつれて声も出ない、水も喉を通らない。医者に診てもらっても治らない。すると心ない人たちは呟きます。「マリアは七つの悪霊にとりつかれている」と。しかし、優しい人たちは、言葉と癒しに力のあるイエスさまの所へマリアを連れて行くのです。

折りしも、大勢の人々が集まっていました。そこでマリアは、イエスさまに手を置いてもらったのです。するとどうでしょう。七つの悪霊が彼女から出て行ったのです。目に光が射し、イエスさまの顔が見えて来たのです。耳に音が届き、イエスさまの声が聞こえて来たのです。「貧しい人は幸い、天の国はその人のものだ。悲しむ人は幸い、その人は慰められる。飢え渴く人は幸い、その人は満たされる。迫害される人は幸い、天の国はその人のもの。カイレテ！ 喜びなさい！ 大いに喜びなさい！ 天には大きな報いがある」。するとどうでしょう。手足のこわばりが去って、彼女は起き上がり、立ち上がったのです。舌のもつれが解けて、語り始め、食べ始めたのです。暗闇と沈黙の中で祈っていたマリアを、イエスさまは知っておられ、地上に訪れた天の国へ招き入れてくださったのです。

その日から、マグダラのマリアは、元通りの女の
人になったというよりも、全く新しい人に生まれ
変わりました。死んだも同然だった私を生きる
ことができるようにしてくださった御方、イエス
さまを、私の人生の主としよう。これからは、イ
エスさまのために生きてゆこう。そう心に決めた
のでした。十二人のお弟子と共に、イエスさまに
従い、町や村を巡る旅人になりました。元々、工
場をきりもりしたい、大きな商いをしたい、そん
な夢を描くような才覚のある女性でしたから、イ
エスさまとお弟子の毎日の必要を賄うため、大い
に知恵を働かせ、献身的にお仕えたのでした。

彼女の毎日は、喜びに満ち溢れていました。一
つの心配事を除いて。イエスさまの言葉と癒しは、
神さまの御言葉と御業そのものでした。それが余
りにも素晴らしいので、イスラエルの偉い人たち
がイエスさまを殺そうと狙っている。それを知っ
たのです。しかもイエスさまのお言葉、「人の子
は必ず多くの苦しみを受け、長老・祭司長・律法
学者たちから排斥されて殺され、三日目に復活す
る」、そう聞いたからです。

彼女の心配は、現実になってしまいました。過
越祭の金曜日、薄暗い明け方、イエスさまは逮捕
されてしまいます。総督ピラトの裁判で、罪のない
御方が、罪深い人々の手に引き渡されてしまっ
たのです。散々痛めつけられ、十字架を担がされ
て、ゴルゴタの丘で釘付けにされたのが朝の九時。
まるで夜のような闇に包まれたのが昼の十二時。
そして息を引き取られたのが午後の三時でした。
安息日の始まる日没まえ、遺体は布を巻かれた
だけで岩穴の墓に葬られ、すぐに大きな石の蓋が閉
められたのです。

長い長い一日、なすすべもないマグダラのマ
リアは、ただイエスさまを遠くから見守るしかあり
ませんでした。人生の主と心に決めてお仕えて
きた方が、目の前で殺され、葬られた。そのあま
りにも惨い現実を、どうしてすぐに受け留めるこ
とができたでしょう。金曜の夜から土曜の夜まで、
重苦しい安息日を過ごす中で、彼女は悶々と考え

ます。最後に何かして差し上げることはないもの
か。せめて、ご遺体の傷口を洗って、香油を塗る
ことはできないものか。日曜の朝が明けるや否や、
彼女は香油を持って墓へ走ります。するとどうで
しょう。墓穴を塞いでいた大きな石が取り除けて
あるではありませんか。恐る恐る中を覗いてみる
と、なんと！ イエスさまのご遺体がない！ 誰
かが運び去ったに違いない！ 自分にできる最後
の奉仕さえ叶わない！ 彼女は途方に暮れ、泣き
崩れました。

するとそこに、白い衣を着た誰かが現れて、声
をかけます。「恐れるな。あなたの捜している御
方は、この墓にはおられない。復活なさったのだ。
さあ、急いで、弟子たちに伝えるのだ」。彼女は
思い出します。「人の子は殺され、三日目に復活
する」。そう仰せになったイエスさまの御言葉が、
彼女の心に響き渡ります。するとどうでしょう。
悲しみの涙が、喜びの涙に変わったのです。彼女
は立ち上がり、走り出しました。その行く手に今
度は、見覚えのある方がまるで迎えてくださるよ
うに立っておられる。そして、こちらに声をかけ
てくださるではありませんか。「カイレテ！ お
はよう！ 喜びなさい！」。その声はまさしく、
あの方の声でした。ガリラヤの町や村を旅した毎
日、エルサレムへと向かった毎朝、いつも聞いて
いたイエスさまの声でした。復活なさった主の足
を抱きしめ、御前にひれ伏したマリアに、イエス
さまは仰せになります。「恐れることはない。兄
弟たちに、ガリラヤへ行くように伝えなさい。そ
こで会おう」。

マグダラのマリアは再び、喜びに満たされまし
た。主は生きておられる！ 主の御用のためにお
仕えすることができる！ この喜びを彼女から奪
い去ることは、誰にもできません。死さえ、この
喜びを消し去ることはできないのです。主イエス
は、死を突き抜けて生きておられるからです。そ
して、この方にお仕えするマリアは、その命をい
ただいたのです。 (二宮 創)

[今週の暗唱聖句] マタイによる福音書 5章12節

喜びなさい。大いに喜びなさい。天には大きな報いがある。

あなたがたより前の預言者たちも、同じように迫害されたのである。

ねらい：イエス様がよみがえられ、今も生きておられることを知る。

視覚教材：イエス様の復活の紙芝居や power point など

【エッグハンティング】

CS ルームにイースターエッグ（お菓子をつめて）を隠して、子どもたちにさがしてもらいましょう。（イースターエッグやイースターエッグチョコ、イースターのクラフトなどは Foreign buyers club で手に入ります）

【お話】

イースターと言えば何を思い浮かべるかな？（子ども達の声を聞きながら）エッグハンティング、うさぎ、ひよこ、卵。イースターは世界中の人がびっくりして、そして大喜びをした記念の日です。

先週のお話を覚えているかな？

イエス様が十字架にかけられて、なくなられました。今日はその後のお話です。イエス様は十字架から降ろされお墓に入れられました。昔のお墓は大きなほら穴に、石の重いふたをかぶせたものでした。大きい大人が何人も一緒にしないと、簡単には動かすことができません。その上ローマ人の強い人たちが、墓の前でみはっていました。

しかし3日後の朝早く、イエス様の友達だった女の人たちが墓につきました。そして驚くことに

お墓のまえにあった大きな石が開いていました。恐る恐るお墓の中に入ると、イエス様の姿がみえません。すると突然真っ白な服を着た天使があらわれました。そして女の人たちにたずねました。

「こわがらなくてもいいですよ。イエスを探していますか？ イエスはここに居ません。神様が生き返らせたのです。急いで行って、弟子たちにイエスがよみがえったことを伝えなさい」女の人たちは大喜びでその知らせをみんなに伝えようと走り出しました。その途中ある人に「おはよう」と声をかけられました。その声はいつも聞いていたイエス様の声でした。彼女たちはイエスの足を抱きしめ、「イエス様ー」と喜びました。イエス様は「怖がらなくてもいいですよ。わたしの兄弟（友達）たちの所に行って、ガリラヤの町に行きなさいといいなさい。そこで私に会うことができるから」といわれました。

イースターは私たちのために死んでくださったイエス様がよみがえられた日です。イエス様は本当に強いかたです。そのイエス様がいつも私たちと一緒に居てくださいます。

【工作】

イースターのバスケット作り。紙皿を使って簡単にできるクラフトです。

紙皿にシールなどを貼り、裏側に対角線を引き、ハサミで真ん中まで切る。ホッチキスでとめて、取っ手を付ける。



幼稚科の工夫② ～Foreign buyers club～

Foreign buyers clubって？外国の食材やクラフト用品、もちろんイースターやクリスマス用品なども安く手に入れることができます。特にクラフト用品のWiggly eyes（動く目）Maggic color scratch Crosses（スクラッチでカラフルな色が出る十字架のカード、カラフルなアイス棒など外国製なので量は沢山ありますが、色々なクラフトに使用でき便利でした。

マタイ28:1~7をよみましょう。

1. マリアさんたちは、いつ、どこへ行きましたか？

2. そのとき、どんなことがおこりましたか？

3. 見はりのばんべいたちはどうしていましたか？

4. てんしはなにをしらせましたか？

マタイ28:8~10をよみましょう。

5. マリアさんたちはだれに会いましたか？ どんなきもちだったとおもいますか？

6. イエスさまはなんとおっしゃいましたか？

7. イエスさまのふっかつは、あなたにとってはどんなできごとですか？

マタイ28:1~7を読みましょう。

1. マリアたちが墓へ行ったのはいつですか？ 何のためでしたか？（マルコ16:1参照）
2. その時、何が起きましたか？
3. 墓を守っていた番兵たちはどうしましたか？
4. 天使が告げたことは何でしたか？
5. マリアたちや弟子たちは、イエスさまが復活することを知っていましたか？

マタイ28:8~10を読みましょう。

6. 天使の話聞いた婦人たちの反応はどうでしたか？
7. その後、誰に出会いましたか？
8. 復活のイエスさまに出会った婦人たちは、どんな気持ちだったのでしょうか？
9. イエスさまの復活は、あなたにとってはどんなことですか？